

## シャッター以後ー 4

### 「ペチカ、あるいは一杯のスープと詩と映画」

表紙写真●本橋成一

文●村石 保

……ペチカの前で読書をしている青年。鼻唄まじりで刺繍をしている母親。そのかたわらで、父親は箆編みに余念がない……。映画「アレクセイと泉」における幸福なシーンが、たちまちに甦ってくる1枚の写真。

泉が大きなモチーフになっているにもかかわらず、この映画はペチカ存在を抜きにして語ることとはできない。

ペチカは暖をとる装置にして、豊かな食卓を約束してくれる<sup>かまど</sup>竈としても、貴重な存在なのである。

——「我等の日々の糧を  
今日も与え給え」と祈るように。（\*）

——かれは 人生を、ごらんの通り、  
惜しみなく愛したのだ……  
だがこの世では足りなかった、  
かれのための  
一杯のスープが。（\*\*）

そして、わが艶歌の国の北の果ての街では、悲しみを暖炉で燃やしながら暖めあっているという。  
ペチカの火は誰をも詩人にしてしまうものなのかもしれない。  
それにしても、ペチカと泉から1冊の写真集と奇跡のような美しい映画までつくってしまった写真家は、少しばかり欲張りな存在と言わねばならない。

\* （「ズボンをはいた雲」 マヤコフスキー）

\*\* （「画家ピロスマニの唄」 プラート・オクジャワ）

## チェルノブイリ黄金の秋



黄金の秋を駆け抜けた。  
大爆発事故を起こした原発の建屋の行方を見ていきたい  
と思った。  
素朴な地方の病院に横たわるはかない子どもたちに出  
会った。  
チェルノブイリ被災地を応援しようとする友人たちと、  
海を越えてつながった。

### 目次

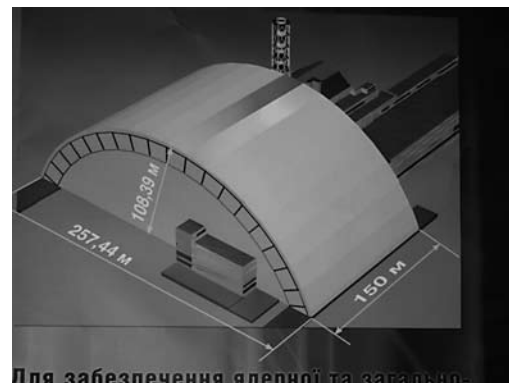
チェルノブイリ黄金の秋	4号炉の解体は？	6
	こんにちはベラルーシ<カ丸邦子>	8
イラク支援 急がれる がん診断技術の向上	急がれるがん検診技術の向上	14
	第7回JIM-NET会議	
	イラク医師7名参加、専門性高めた会議	
	<井下俊>	16
	限りなき義理の愛大作戦	20
連載	ベラルーシの食卓	22
	モスクワ便り	23
	ホントにできる？省電力の生活	
	<有賀ふく江>	24
	連載随想「触り覚え」<宮尾彰>	28
	ロシア小話	30
	振込用紙のメッセージから	32
	ありがとうございました！	34
	「ナジェージュダ2007」募金のお願い！	36
	JCFオリジナル手提げができました！	38
	Здравствуйте！（事務局広場）	40
	カルチャー・レヴュー	44
	インフォメーション	46

## 4号炉の解体は？

10月21日から28日まで、メンバー3人でトランジットを含め5カ国を駆け抜けた。

チェルノブイリ4号炉の修復工事は、1970年代から次々に原発が建設された日本にとって、今後、看過できない問題である。実際にどこまで進んでいるのだろうか、と5年ぶりの訪問に興味があった。

23日は、ゴメリを朝6時半に出発した。国境を何回も通過する道为避免、大回りをした。ところが、指定された検問所に着いたのが、午後3時を回ってしまった。紅葉の中



パビリオンに展示されている、石棺を覆うための新たなドームの設計図

の長時間ドライブ。コーディネイター兼通訳のイリーナさんが持っていた1枚のチョコレート分け合い、夜の11時まで。大変なチェルノブイリツアーだった。

4号炉を臨むパビリオンで事故と修復計画について、説明を受けた。4号炉の北と西側を鉄筋で補強し終わった所だと言う。100m位離れていたろうか。4号炉の壁は、隙間から放射線が漏れていると指摘されていたが、それ以上について崩れてもおかしくない状態だったのか。撮った写真を見ても、いかにも脆そうで、緊急に覆っただけの石棺だったことがよくわかる。来年から、かまぼこ型のドームを作り、石棺を覆う工事が始まる予定だ。しかし、資金の集まりが悪く、ドームの中の解体作業は、クレインロボットで行なうと計画されているが、具体的な目途は立っていないようだった。日本からかなりの資金が拠出される。チェルノブイリ原発からは目が離せない。

ゴメリ州立病院付



ゴメリ州立病院付属産院への生化学分析器試薬キットの支援

属産院へ、生化学分析器の試薬キットを届けた。赤ちゃんに少量の血液で肝機能や血中成分を測定することができる。1年間分総額336168円のキットを届けた。放射線医学人間環境センター、チェルノブイリ地区病院、ベトカ地区病院では、カ丸邦子さんを中心に子どもたちと楽しく遊んだ。子どもたちは、手遊び、日本の「桃太郎」の話に夢中になった。

最終行路のジュネーブでは、チェルノブイリ支援のチャリティコンサートに参加した。昨年のチャリティ絵画展に引き続き、ジュネーブの皆さんからも応援していただいている。会場はいっぱいで、かく言う私もカ丸さんも演奏会場に入ることができなかった。途中から来られた人たちが何人も場所がなくて引き返されるのは残念だった。しかし、それだけ「チェルノブイリの友 イン

ジュネーブ」の皆さま



コンサートを盛り上げる、猪又さん(左) ピチェさん

んの頑張りがあったのだ。

暖かい雰囲気と長谷正一さんのピアノ、原麻理子さん、岡純子さんの演奏もすばらしく、皆さんが感激されていた。ジュネーブから届いた収益60万円の寄付は、今年度のベトカ地区病院保育器購入のために使わせていただくことになった。フリータイムにモンブランの麓、フランスのシャモニーにバスツアー。山の大好きな諏訪中央病院研修医の齋藤先生は、元気に3892mの展望台に上がった。

盛りだくさんな「黄金の秋」ツアー、今回もたくさんの方の新たな出会いがあった。

(事務局・神谷)



モンブランの麓でカ丸さん、齋藤さん、神谷事務局長

# こんにちはベラルーシ

カ丸邦子



チェエルスク地区病院小児科病棟に入院中の子ども

一年ぶりのエコセンター訪問。  
 去年の夏のようなざわめきはなく、むしろひっそりとしていた。ほとんどが点滴中で、点滴を終えた子どもたちが集まって来た。紙芝居や絵本を見てから童謡で遊ぶ。  
 ♪どのおせんべが焼けたかな♪

小さな白い手が並ぶ中、こんがり焼けた大きな手が混じる。齋藤先生は自ら子どもの中に入り込んでくださった。続いて、

♪ずいずいずころばし♪

子どもたちは首を竦めてよく笑う。次に折り紙を始める。みんな飽くこともなく折っていた。終わりにしようとした時、年齢の大きい女の子たちが入ってきて覗く。

「また明日ね」

声をかけると

「明日は何をするの？」

「それはヒ・ミ・ツ」

また、首を竦めて笑った。

大きい子たちが『漢字を書いてほしい』と言う。

「好きな言葉を選んで書いて」

と約束をして別れる。

翌日、子どもたちは待っていた。桃太郎の絵本から始める。この絵本は昨年、筑摩小学校の生徒さんたちがベラルー

シの子どもたちへとコピーを重ね、丁寧に手作りしたもの。日本らしい絵と、昔から語り伝えられたままのストーリー。読みながら子どもたちの様子を窺うと、真剣そのもの。食い入るように見ていた。見終わって『不思議だった』『おもしろかった』と感想を聞かせてくれた。

折り紙で奴さんを折っていると、大きい子たちが入ってきた。ご希望どおり好きな言葉を漢字で書く。ほとんどが「愛」を希望。

「愛」という字の真ん中には心という字が入っています」と話すと、みんなで書く手許を見つめていた。それぞれの名前をカタカナで書いてやると喜んで、早速、携帯電話で送信する子もいた。

エコセンターの子どもたちは、思いの外、元気で明るく、安心の中に居ると感じた。

チェエルスクの病院を訪ねるのは三度目。だが小児病棟に入るのは初めて。いつ訪ねても、どの場所も暗い。

入院中の子どもは26人と聞かされたが、看護師さんは特別子どもたちに声をかけてくれるようすもないので、自分から子どもたちの声のする部屋を覗く。剥き出しの鉄骨の囲いの中に薄物を敷いただけの粗末なベッドに、顔色の悪い、小さな男の子が寝ていた。3歳か4歳か。声を掛けると、

目を開けてちよつと笑ってみせた。絵本を出して

「ほらほら、蛙がびよーん」

…かすかな笑顔、声が切れるとトロトロと眠る。

「うさぎがびよーん」

「バッタがびよーん」

その都度小さく笑ってみせるがほとんどトロトロと眠る。もう一人、同じ部屋にいた3歳か4歳か、男の子が私と一緒に「びよーん・びよーん」と声を張り上げるようにして言う。さっき部屋の外に聞こえてきたのはこの声。ああ、友だちが眠ってしまわないように声を掛け続けたのだとわかった。弱々しく、自分への呼び掛けに応えようと小さく笑みを返す。

そのようすがあまりにいじらしくて、傍げで、思わずこの腕に抱え込んだ。

この小さな二人の帰る場所は孤児院だと知って、二人の行く末を想った。

赤ずきんちゃんが



子どもにお話するカ丸さん

出て来そうな森の中。小枝を組み合わせた垣根に囲まれてその建物はあった。

一度、訪ねてみたいと思いついていたベトカ地区病院。院長のナジェージダ先生は自分たちの病院について熱く語った。その顔は希望に向かっていて人の表情で輝いて見えた。エコセーターとは密に連絡をとっており、日に一度は行き来し、緊急の時には直ぐに検査や対応ができる関係になっていっていると聞いて、万全を期して配慮されていると安心感を覚えた。

「JCFから保育器を二台贈りたい」

神谷さんがそう伝えたと、ナジェージダ先生は頬を紅潮させ

「二台だけでもとても嬉しいのに二台ですって?!本当に? まあ二台ですって!」

と繰り返して、看護師長さんと手を取り合えばかりに喜んだ。なんて慎み深い人なのだろう。足ることを心得ている人だと思った。この人にこそ、こういう人の下にこそ、多くの善意が届けられますようにと願った。

院長先生の声掛けで担当の女性が子どもたちをプレイルームに誘ってくださった。お相撲の小錦さんを思わせる彼女は、この病院に30年も勤めているという。職員の多くは、この病院で長く働いていると聞いて、そんなところに



ベトカ地区病院の看護師さんに抱かれる赤ちゃん

二人の赤ちゃんの母親は理由あって、我が子を抱けない。二人の帰る場所は乳児院だという。さらに先生は

「ほーら見て。この子はこんな美人に生まれてきましたよ」と自慢気に言った。それはあたかも、どんな状況にあれ、どこに産まれようとも、この世に生を受けたことが喜びであり、祝福なのだと言っているようで胸が熱くなった。

乳児室を出ると小さな女の子が立っていた。

「なあに?どうしたの?」

と声を掛けながら膝を折って向き合おうと、後ろを向いてお尻で探るようにして膝に乗ってきた。まあ小さい小さなお尻だが、それなりの重みがあった。ナジェージダ先生に

もこの病院の安定感があるのかもしれないと思った。その日会った職員はみな笑顔がきれいだっただけ。

何が始まるのかと、小さな人たちは賑やかに母親と共に集まってきた。ここ

でも『ぴょん』の絵本を開く。一緒に飛び跳ねたり寝ころんだり、中には奇声を発して走りまわったりと興奮していた。『まあるくなあれ、まあるくなあれ』

と歌いながら輪になって小錦さんもお母さんも神谷さんも斎藤先生も一緒に♪通リゃんせをしておしまいとなった。

ナジェージダ先生の案内で乳児室へ。生まれたばかりの赤ちゃんが二人眠っていた。若い看護師さんがやさしく抱き上げて赤ちゃんの顔を見せてくれた。と、ナジェージダ先生は言った。

「この子は私たちみんなで育てています」。



ベトカ地区病院プレイルームの子ども達

「さあ、みんなの所に戻りなさい」

と言われると何か考えるような仕草をしてからゆっくり膝からおりた。が、

「まあ、こんにちは」

と声をかけた神谷さんの膝に、やはりお尻で探るようにして座った。そしてスツと立つと振り向きもせず、みんなの所に歩いて行ってしまった。お母さんの膝を探していたのかもしれない。あの膝も、この膝も、母の膝ではなかった…。

この子の帰る場所も乳児院だという。この子のはねあがった髪の毛の型も、着ていたワンピースの色もはつきりと憶えている。弱々しく笑ってみせたあの男の子の白い顔と一緒に、私の眼裏に今もくつきりと残っている。

10月のベラルーシは秋色に染まっていた。白樺の小枝は金色に輝いてまさに黄金の秋。きれいな秋だった。泣きたいほど、きれいだった。

## 急がれるがん診断技術の向上



第7回JIM-NET会議の参加メンバー

小児白血病治療に経験を積んだドクター達が集まった。それぞれの方法を発表し、検討した。意見交換は、双方の向上につながっていくのではないかと考えた。“イラクの白血病の子どもたちのために”は“関わる者たちのため”に。

今回のスタディーツアーの時期は、黄金の秋と言われるベラルーシの紅葉の時期と重なり、帰国後には日本の紅葉とあわせて、二度も紅葉を楽しめた良い秋となりました。

今回、チェルノブイリ原発4号炉を間近で見ることができました。解体・廃炉の前に、放射線を遮蔽するため新たなドームで覆うとのこと。今後、日本でも廃炉の問題に取り組むわけですから、その観点からもチェルノブイリの課題は過去の遠い国の出来事にはならないのでは、と思いました。

また、ベラルーシのいくつかの病院を訪問させていただきました。初期研修医一年目の僕は、これから多くの研鑽を積み重ねなければならぬと考え、これから日々の仕事を通して実践していきたいと思えます。訪れた病院は、それぞれに違った特徴を持っていました。事故を乗り越え地域に良い医療を提供しようとする熱意を感じる病院、活気がなく環境もよくない病院。僕は病院ごとの熱意に温度差を感じました。日本からの支援も必要かもしれませんが、ベラルーシの各病院で、もっとやれることがあるのではないかと感じました。

齋藤圭一（諏訪中央病院研修医）



チェルノブイリ原発バビリオンで係員の説明を聞く齋藤さん（左）



## 急がれるがん診断技術の向上

佐藤 真紀（JIM—NET事務局長）

会議の度に、ローカル・スタッフのイブラヒムが、バスラの病院で撮影したがんの子どもたちの写真を持ってきてくれる。それらの写真の中には、眼のがんが多いのが気になる。一方、腫瘍がひどく、顔や頭がひどくはれ上がった子どもたちも何人かいる。



いつもガーゼで腫瘍の部分を隠していたフセイン君

ていた。  
抗がん剤の治療を施しても、腫瘍はどんどん大きくなっていく。「日本なら何とかならないだろうか」2007年2月に、Dr.ジナーンから写真を見せてもらったときは、腫瘍が口の中いっぱいに広がり、首のところは皮膚が裂けている状況だった。

そもそも、彼が病院に来た時点で手遅れだったのかもしれない。イラクの治安の悪さ、そして貧困が、子どもたちがなかなか病院に来にくい環境を作っている。

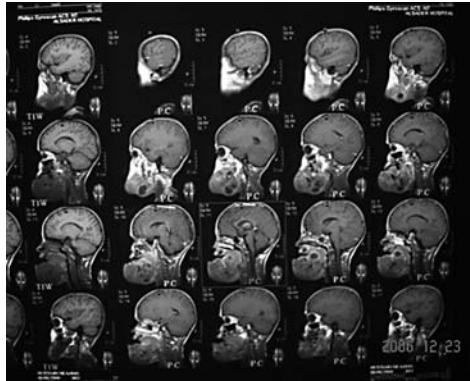
信州大学の小池教授は、

「日本では、ここまでひどい腫瘍は見たことがない。ここまで抗がん剤が効かないというのは診断が間違っているのではないか？」という。

私たちは、隣国ヨルダンのキング・フセインがんセンターを訪問すること

があるが、たしかにヨルダンでもこのような腫瘍は見たことがなかった。

がんの治療は、タイプによって何種類もの抗がん剤を合わせて使う。タイプの診断が間違っていると薬は効かない。今のイラクでは、染色体検査、表面マーカー、HLA検査ができず、診断は形態学的診断と症候学的診断のみだという。



フセイン君は、口の中に腫瘍が広がり歯も抜け落ちてしまった。

フセイン君は、口の中に腫瘍が広がり歯も抜け落ちていたために、ものを食べることもできず、母がスプーンを使って、口から流動食を入れていた。治療に来ているがんの子どもたちはフセイン君を見ると怖がって逃げた。母親は、もう助からないと思い、また、フセイン君がするように皆から気味悪がられることがつらく、病院には来なくなってしまうという。そして、フセイン君は苦しみながら死んでいった。  
院内学級の先生でもあるローカル・スタッフのイブラヒムは、フセイン君の気持ちを少しでも癒そうと思ったが、彼にもなす術はなかった。  
子どもたちは写真を撮られるのが大好きだ。イブラヒムはよく子どもたちと一緒に写真を撮って子どもたちを喜ばせている。フセイン君の写真も撮ってみたが、そんな写真を見せてもフセイン君は喜ぶはずもない。勉強を教えることもできなかった。

たとえ助からなかったとしても、精神的にも、肉体的にも、もう少し楽にして上げられなかったのだろうか？ そんな思いだけがイブラヒムには残った。

私たちJIM—NETは、11月19日に、小池教授を招き、マレーシアでイラクのドクターたちとがんの診断方法を検討し、診断技術の支援について話し合った。診断技術の向上により、子どもたちの生存率が上がることが期待できる。

## 第7回 JIM-NET 会議

### イラク医師7名参加、専門性を高めた会議

井下 俊（JIM-NET医療コーディネーター・徳島県立海部病院医師）



JIM-NET会議でイラク医師の話を聞く、右端から田中医師、小池医師、井下医師

11月19日から21日までの3日間、マレーシアで7人のイラクの医師に加え今年8月に来日したバスラ院内学級のイブラヒム先生を招き、第7回JIM-NET会議をもった。JIM-NETが援助している4つの病院すべてから医師が集まるのは、2006年3月の第4回会議以来、実に1年半ぶりのことであった。中には混乱した情勢のために2年以上のブランクを経て再会できた医師もいた。

正直言って2006年の3月以降、JIM-NET会議は停滞していると感じていた。イラクの医師たちは、特に小児がんに従事している医師たちの能力は高い。JIM-NETの当初の援助理念は「専門性を高め、継続した支援」というものであったのだが、ここ2年ほどは彼らに「専門性の高い」支援を与えられていなかったからだ。会議を開いても毎回、最近の情勢はどうか、薬の配給はどうかをレポートしていただくのみで、イラクの小児がん医療の進歩に寄与できるほどのネタも支援計画も立てられず、ただ「継続した支援」を継続させるためだけに、危険なイラクからヨルダンなどに出国していただくことに申し訳なさを感じていた。何らかの突破口を見出さなければならぬと考えていたところであった。

今回の会議では、その停滞から一歩離脱できたのではないかと感じた。信州大学から小児がん医療の専門家で、

チエルノブイリへの支援でも実績のある小池健一先生に参加していただき、イラクの医師たちと幾分専門性を高めた会議をもつことができたからである。

例えば、これは当初から医療支援の一番の目標であった感染予防に関するものである。感染予防は白血病治療の基本であり、JIM-NET発足当初からそれに関する支援も行い、イラク人医師たちの意識改革の必要性も強調してきたつもりではあった。しかしその意図は十分に届いているとはいえなかった。感染予防を効果的に行うためにはイラクの社会様式を変える必要もあり困難ではあるのだが、今まで残念ながらそれを積極的に変えていくというイラク人医師たちの取り組みは見られなかった。例えば、白血病治療において、空気を介した感染症の防止に効果を発揮する簡易型の空気清浄機も、1年以上前に送ったまま、実際には使われずに放置され、また、何が問題で使われないのかのレポートもなされないままであった。

今回、小池先生に参加いただき、感染予防の重要性を改めて強調していただいた。いくつかのイラクの病院での治療成績を示してもらい、急性リンパ性白血病の比較的前後良好なグループ（以下 ALL/SR）で感染による早期死亡例が数例あることが確認された。この ALL/SR グループは日

本では早期死亡に至ることは稀であり、それを死に至らしめている感染症の克服が最優先課題であることを小池先生に指摘してもらった。私などがそれを言っても一般論でしかなく説得力に欠ける。しかし実際の治療経験を持つ小池先生の言葉は重みがあり、イラク人医師の心にも届き、改めて感染克服の重要性が再認識されたのではなからうかと思う。

今回の会議では、イラクの白血病治療の問題点を小池先生により専門的に解析・提示した後、ALL/SRの早期死亡をゼロにすることを目標として、次のような提案をし了承を得た。



右から Dr. リカ、Dr. ジャンン、Dr. フサム、Dr. ウィサム、Dr. マーゼン



## ① G—CSF の積極的な使用

イラクでは固形癌（白血病など血液の癌以外の癌）に対してのみ G—CSF が使用され、継続的にキリンビルから提供いただいているグラン（G—CSF）が小児白血病の分野では有効に使われていないことは分かっていた。今までの会議の中でも積極的に G—CSF を急性白血病でも使用することを勧めていたのだが、イラクの医師たちは使用を躊躇していた。そこで今回、日本での使用例を具体的に小池先生に提示していただき、重症な感染例では積極的に使用するよう改めて勧めていただいた。私の感触では彼らも納得したようであり、これからは効果的な G—CSF の使用がなされ、治療早期での感染死が少しでも防げることであろう。

## ② PO（ペルオキシダーゼ）染色法の導入と染色キットの支援

さらに基本的な事項として、イラクでの小児白血病的診断技術の向上である。バスラで白血病と診断された実際の顕微鏡標本を、今夏イブラヒム先生が来日の際に日本に運んでもらい小池先生に検証していただいた。残念ながらバスラで染色された標本は、正確な診断がなされるに適切な標本ではなかった。間違った診断を元に間違った治療を

行えば悪い結果しか得られない。日本では他の高度な診断技術を加え確実な診断がなされる。しかし、そういった技術を導入するには人や物資の行き来が容易に行われることが条件で、現在のイラク情勢では残念ながら不可能である。そこで、診断の第一段階で国際的に用いられている PO 染色法を導入することを小池先生から提案していただき、イラク人医師たちの了承も得た。極力早期に 4 つの病院に染色液を送付する予定である。



小児福祉教育病院 Dr. ウィサム

その他の援助としては、③感染症の重症度判定に有用な CRP の定量キットの早期援助、④診断をより精密にするための免疫染色の導入、⑤イラクの白血病の特徴把握のために必要な遺伝子解析に向けたサンプル・データの収集なども了承を得、今後日本側で準備をし、来春までにはこれら 5 つの支援が順調に開始されるよう活動していく予定で

ある。

今回の会議では数人のイラク人医師から、治安・政治状況が幾分か好転し薬剤の配給にも改善の兆しが見られていることが報告された。現在の JIM—NET の援助のほとんどが薬剤配給に費やされているのであるが、近い将来それが不必要となり、より専門性の高い検査機材や治療機器あるいは日本での研修に費やしていけるようになればと考えている。そのためには、日本側では小児がん関連の専門家の力をもっともつと得なければならぬ。



小児福祉教育病院 Dr. サルマ（左）、Dr. マーゼン

## クアラルンプール JIM—NET 会議に参加して

初めて海外医療支援会議に参加しました。前回クウェート会議に参加した柳沢龍先生から、イラクのドクター達がどんなことに興味を持っているか事前に聞いていましたので、信州大学の診断と治療の写真を準備して行きました。

3 日間にわたって行なわれた会議では、白血病の診断と治療について、かなり具体的な内容の検討が交わされました。イラクはただ物が無いだけで、ドクター達の外国の医療に対する関心はとても高く、向上心が高いことに驚きました。日本の方法について、小池健一先生が発表した際も、同じレベルで話ことができました。

石油資源のある国ですから、国内の治安が安定したら、物質的支援は要らなくなるとは思われますが、人材育成と人的交流をひき続きおこなうことにより、必ずイラクの白血病の子どもたちの治療成績は向上すると確信しました。まずは、白血病の正確な診断のために、メイ・グリェンワルト・ギムザ染色キットとペルオキシダーゼ染色キットなどを送るようにしましょう。

イラクでも、日本と同じ治療成績が得られることを目指して、今後も協力し合っていきたいと思います。

田中 美幸（信州大学医学部小児科）

## 戦作太愛の理義なき限り



来年はイラク戦争が始まって5年目になります。現在イラクでは、がんや白血病に罹る子どもたちがあつたをたつたず、保健行政の停滞と不安定な治安状況は一向に回復する気配はなく、子どもたちにとって厳しい状況が続いています。

JIM-NEETは、そんな子どもたちに、まだしばらくは薬を届け続けなければなりません。

3年目になるJIM-NEETのバレンタインチョコ募金『限りなき義理の愛大作戦』は、イラクの子どもたちのために、皆さまの愛のおすそ分けをいただくキャンペーンです。500円の募金(400円が支援に使われます)が白血病と闘うイラクの子どもたちの一日の薬代になります！

これまでと同様、愛のおすそ分けをしてくださった方に、子どもたちの絵を題材にしたパッケージのチョコをプレゼントするというものです。

パッケージの図柄は4種類(上図を参照)。院内学級の子どものための教科書とノートをイメージしています。

◎ 通常セット 右記4種類を一組とするのが『通常セット』で、1セット2000円のご支援をお願いします。  
◎ 絵本セット 通常セットに『イブラヒムの物語』1冊を添付したのが『絵本セット』で、1セット2500円のご支援をお願いします。

お申し込みは、JIM-NEET事務局宛てに、郵送、ファクスまたはEメールでお願いします。

・ 郵送・ファクスでお申し込みの方は、同封のチラシの裏面が申込用紙になっています

・ Eメールでお申し込みの方は、JIM-NEETホームページ記載の書式に従ってご記入の上、申し込み専用アドレス宛にお申し込みください。

<http://www.jim-net.net/notice/07/notice071115.html>

◆ 郵送

〒390-0303 長野県松本市浅間温泉2-12-12

JIM-NEET事務局

◆ ファクス

0263-46-6229

◆ Eメール

申し込み専用アドレス: [08campaign@jim-net.net](mailto:08campaign@jim-net.net)



「将来は絵描きになりたいの」というイラク人の女の子、ハニーン・アブドゥルハーリク(11歳)は現在、重い癌の病と闘っている。



## モスクワ便り



11月の半ば、モスクワでは、ほとんどの男性達は、ある一つのこと—サッカーに夢中になりました。2008年夏、オーストリアとスイスで行なわれるヨーロッパ選手権に、ロシアが選出されるチャンスだったのです。

しかし、ロシア選抜チームの運命は、クロアチア対イギリスの得点差に委ねられることになりました。もし、クロアチアが勝てば、ロシアはヨーロッパ選手権への希望があります。私は、まったくサッカーには無関心で、ロシア選抜チームのゲームを見ることもなかったのですが、テレビのニュース番組には、ロシアのファンをひきつける面白いルポルタージュがありました。

石油会社“ルコイル”の副社長で人気のモスクワサッカーチームのオーナーでもある一人のロシア人ビジネスマンは、もしクロアチア選手たちがイギリスチームを負かすことができるならば、クロアチアチームに物質的な応援を準備していると発表しました。彼は、自分のチームのクロアチアのゴールキーパーを初め3人の名プレイヤーに“メルセデス”をプレゼントすると約束しました。

また、モスクワにあるクロアチア大使館員はニュース番組でこう言っていました。

「30～40人でした。ゲームが終わって、夜中の2時にやってきて、歌を歌い、イギリスに勝ったクロアチアに感謝し、7つの花束を持ってきました。ファンたちは、“ありがとう！万歳クロアチア！”と書かれた旗を2つ大使館にプレゼントしました。旗の一枚の表書きはクロアチア語で書かれていました。ファンの群れは、とどまることがありませんでした。翌日も。喜んだファンたちは、大使館に花束をプレゼントし、大使館員に0.5kgのイクラ、ウォッカなどをプレゼントしました。ある広告会社は、私たちにインターネットでクロアチア旅行を無料で広告すると提案しました。これ以外にも、大使館には、数千のお祝いや感謝の電子メールがウラジオストックからプレストまで全地域から届いています」

イリーナ・ニコラエワ（モスクワ事務局）

## ベラルーシの食卓

ご恩は若さで返したい

長いことお世話になった在日ベラルーシ大使館の一等書記官チェレンチェフ・セルゲイさんが、帰国することになりました。もう一年前に、最愛のパートナー、カーチャさんと一人娘はすでにミンスクに帰っています。セルゲイさんも、はやく家族の元に戻りたいでしょう。過日、送別会と日ベ友好協会の忘年会が、六本木の“ミンスクの台所”で行なわれました。日本唯一のベラルーシの家庭料理レストランです。

ベラルーシで、およばれを重ねてきた私は、興味津々で出かけました。

ビュッフェ形式の会場は、横切ることができません。セルゲイさんの日本語能力と暖かい思いやり…感謝しきれない、たくさんのご恩を抱えた人たちであふれていました。

熱い熱気の中で、ハラゼッツ（ХОЛОДЕЦ）をいただきました。きっと語源は寒い（ХОЛОДНЫЙ）からきているに違いありません。

日本にもある煮凝りのような一品です。田舎のおばあちゃんたちは、骨付き鳥肉を煮込んで、洗面器の形をしたお鍋にいっぱい作っていました。

カラーゲンがありそう…、と人垣をぬって、お皿にのせてきたのでした。

### <材料>

骨付き肉（豚または鳥）500g・水2リットル・ローリエ 1枚・玉ねぎ 1/4個・香辛野菜（イタリアンパセリ）少々・塩、コショウ 少々・ゼラチン 5g

### <作り方>

1. 骨付き肉は1度ゆでこぼす。
2. 鍋に水、骨付き肉、玉ねぎのみじん切り、ローリエ、塩、コショウを入れて、強火で沸騰させ、アクを取る。
3. 弱火にして、1時間煮詰める。
4. ③の汁をこして、塩、コショウで味を整える。
5. 骨から身をほぐす。
6. ゼラチンを水大さじ3で、しめらせる。
7. ④にイタリアンパセリ、ゼラチン、ほぐした肉を入れて、冷蔵庫で冷やし固める。

## ホントにできる？ 省電力の生活

有賀 ふく江



わが家の場合使えないものを挙げたら、冷蔵庫（夏なら大変なことに）、暖房器具全部（冬は凍死？）、お風呂。テレビはなくてもラジオは欲しい、洗濯は手でできて給湯器は使えない、ろうそくだけの照明がいくらロマンチックでも仕事にならない。冬は水道管が凍って破裂。オール電化でないのがせめてもの救い、ガスと水道があればとりあえず煮炊き是可以るけれど、電子レンジがだめだと不便だろうな。パソコンが使えないのは一時的には不便でも、使っていなかった2年前に戻ればいい。もともとエアコンはない。それでも地震などの被災地で電気の灯りがとまったときの人々の安心感は、想像に難くありません。

### 「省エネ講座」で

こんな状態で原発に頼らない暮らしを語るのとはもとと矛盾なのでしょか。省エネ仕様の家を建てたり、太陽光発電装置を設置したりするのは当面無理だし。しかし今でできることがあるのにしないのは無責任。先日まつもと市民環境大学主催の「省エネ講座」に参加して、さまざまな省電力の実践を聞き、その思いを強くしました。

その中で特に盛り上がった話題は、寒冷地信州の冬の電力消費量に大きな割合を占める、水道凍結防止帯。温度セ

### 電気がなかったら…

子どもの頃よく停電がありました。学校でチャイムが鳴らず振鈴の音がすると、「あ、停電」と知ったし、家ではろうそくの明かりで何時間か過ごしたり。あれはあれで楽しかったのですが、生活のあらゆる場面で電気に頼る今日、停電は一大事。

ンサーの位置や巻き方の工夫（※注）のほかに、凍結の恐れのあるときだけ電源を入れるという提案も出ました。しかしずばらで忘れんぼの私は、電源を毎日入れたり切ったりなどとてもできません。万が一寒波襲来の夜に入れ忘れてもしたら、翌朝悲惨です。水道管が破裂するような日は水道屋さんは大忙し。さんざん待つて修理が済むと、万というお金を払うことに。ここは節電器を取り付けるだけで勘弁してもらいましょう。講座での「消費者の会」の方の情報では、節電器使用时より大幅に省電力の効果のある製品をメーカーが開発中で、モニター調査が始まるとのこと、これは期待が持てます。



※注 凍結防止帯のセンサーは、管の温度を感知するものと外気温を感知するものの2タイプあり、製品を十分理解していない業者が誤ってセットすることがあるそうです。また、発泡スチロールの保温材（竹輪みたいなヤツ）の付け方も複雑な場合があるので、ご家庭では非一度確認を。

### うれしい省エネ

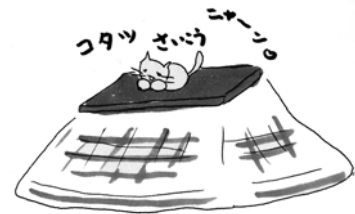
『六ヶ所村ラブソデー』上映会の折、鎌仲ひとみ監督との座談会で、高校生から「節約はかつこいい」という名言がとび出して喝采を浴びましたが、私は加えて「節約はうれしい」でいいなと思います。「持続可能」は省エネにおいても大切で、楽しくなくては続けられません。今は冬なのでまず暖房について。夫も私も、こたつや火鉢しかない（そもそも部屋を暖める発想がない）生活から、化石燃料による暖房が家庭に普及する、いわゆる「燃料革命」の時代に成長しました。

つまり「昔の生活」もちよつと経験しているので、半纏（はんてん）やひざ掛けがあれば、FF式ヒーターは15℃の設定で大丈夫。風邪を引かない程度の我慢比べは結構楽しいし、なるべく一部屋で過ごし夜はさっさと寝てしまう（のが理想）。

集中暖房で家全体を暖め



ることや、吹き抜けの広い部屋でパーティーを開いたりすることもたしかに素敵です。しかし子どもが巣立った後の小人数の暮らして思うのは、広い空間は何かとモッタイナイということ。今後は居心地のいい必要最小限の空間で、冬を仲良く過ごす楽しさを追求する、という考え方でいくつもり。家族のあり方や生活様式は千差万別で、人さまに強要はできませんけれど、それに加えてこまごまとした工夫。



もう調理器具の一つになっていて、おでんのときはこれに頼りっぱなし。  
・また2人暮らしになってから、1日2合の米を小鍋で炊くようになりました。普通の鍋で大丈夫ですが、できれば蓋がガラスの鍋だと、ふつふつと無数の泡がかつ消えかつむすぶのが見え、詩心をそそられたりもします。沸騰からとろ火にして7分。要タイマー。鍋が小さいので、洗う温水と手間も考えると圧力鍋より効率的です。電気炊飯器の必要はありません。

・暖房便座は朝出かけるとき電源を切ります。帰宅後うっかり座った夫の「ツベター！」という叫び声を聞くこともたまにはありますが。

・冷蔵庫の中には、ポリ袋をカーテンのようにぶら下げ、開けたとき冷気が余分に外に漏れないようにしています。ドア収納の飲み物を出すことが多い夏場に特に効果的です。

・発泡スチロールの鍋保温箱（やおやさんでもらった）は、



これら小さな工夫が報われるのが、月の電気使用量と料金を見ると。電力会社からのお知らせの、前年同月の使用量を下回っているとうれしい。さらにそれを料金の差として知ると、節約が続ける大きな動機付けとなります。人って単純なものです。実はここが大事なポイントです。普遍は単純なり。家庭でのわずかな「うれしい」を、社会全体のレベルに押し上げてうれしさを皆で共有することができるとは素晴らしい。

## 「鳥の目」も忘れずに



ところが、前言を翻すようですが、省電力がうれしくない人もいます。『電気はクリーンなエネルギー』として「オール電化」を勧める広告が目立つことから察すると、その点、なんだか戦争と似ているなあ、と思います。「誰もが平和を望んでいる」といった後で、「あれ、それならなんで戦争が続くの？」という構図。

原発もプルサーマルも使用済み核燃料再処理も、大きな危険を隠していると知りながら、国策として推進されている以上めったなことでは止められない。実はいつもここでちよつとめげます。まあ、「千里の道も一歩から」とか「ハチドリのひとしずく」とかいうおまじないで気を取り直すのですが。

日々の「虫の目」的省電力の取り組みの意義を、家計のやりくりに留めておくのではなく、原発に頼らない暮らしを目指すという遠大な計画を実現するための努力ととらえようと思います。欲を言えば、そのためには「鳥の目」をもって世の中の仕組み全体を俯瞰する力を身に付けたいものです。難しいけど。

有賀ふく江（あるが・ふくえ）  
松本在住、「平和の種をまく会」




 さわ  
おほ  
触り覚え

No.30

宮尾 彰

「宮尾さんにとって、教育って何なの？」

「うーん、何だろう。『触り覚え』かな。」

これは、今からおよそ十七年前、大学を出たばかりの私が学生時代の友人と交わした会話の一節です。当時、故郷に帰った私は恩師の経営する小さな学習塾で英語を教えていました。「登校拒否」という言葉が新聞をにぎわし始めていた頃で、途中から私はそうした子どもたちの家庭教師も経験しました。

今でも、週に一度何人かを訪ねて教えた時のことをよく覚えています。毎日学校に行けず自宅に閉じこもっている彼らにとって、私のような訪問者は一種独特なコミュニケーションの相手でした。彼らが、内側に抱えたやり場のないエネルギーを、二時間ほど対座する間にその身体から吐き出すのを、私はただ受け取っていました。

S

快晴に恵まれた秋の一日、私は休みをもらって小さな旅をしました。長野から山梨を越えて、太平洋に向かって真っ直ぐに伸びる富士川街道を車で走ること数時間、道沿いの商店に並ぶ果物は、いつの間にか、赤いリングから朱色のみかんに変わっていました。

目的地は、とある『重症心身障害児・者施設』。

常に医療的ケアを必要とする身体的にも知的にも最重度の障害を負った児童や成人がここで暮らしています。

医師でもある施設長のご案内で、まだ新しい施設の中をゆっくり見学して廻ることができました。

彼らの内のほとんどは、言葉を持っていません。

外見上「寝たきり」としか言い様のない、歪曲した彼らの身体が、広い空間のあちらこちらに横たわっています。

その場の空気に私の身体が適応するまでに、しばらくの時間がかかりました。

進み行くと、明るい日差しに包まれた廊下の真ん中に、二人の入居者が若い女性スタッフと一緒に「べちゃん」と座ってくつろいでいました。

その内の一人に、『こんにちは、おいくつですか？』と声をかけました。『東京オリンピックの年ですから…』と、彼女の代わりに施設長が答えました。

私より少しお姉さんの彼女は、横にしゃがんだ私の顔を覗き込むようにしばらくじーっと見つめました。これほど長い時間、人の眼に見入られるのは久しぶりのことです。

しばらくすると、彼女はにじり寄って来て、私の首に手を回して自分の額に引き寄せ、小さく「プツ」と口から息を吐きました。私も思わず「プツ」と応えました…。

私は、あの中学生たちとの時間を思い出していました。

『見覚えのある顔』や『聞き覚えのある声』があるように、私には『触り覚えのある関係』とでも言うべき記憶があります。少々謎めいた表現かも知れませんが…。

それは、『かわりを求めている人間の身体』について

の記憶です。理性的であるより、むしろ原初的な存在感覚に近い、身体的あるいは生理的なものです。

自分一人の力では寝返りを打つことも、栄養を摂ることもできない彼らの、剥き出しの身体。彼らに寄り添い、彼らの生命を支えるスタッフのまなざしと手。

母親の胸に抱かれた嬰兒が、彼女の内面から母性を引き出すように、彼らが、彼らにかかわる者をより人間らしく日々創り変えているように思われました。

触り覚えは、とりかえの効かない一回限りの出来事の内にもまどろんでいます。何も特別なことのない日常生活の中で、私たちはそれらの多くを置き去りにしているのです。

あのとき、ひだまりの中で私が受け取った小さな是認のあいさつは、私をどこへと誘うのでしょうか。邪な心の無い彼女の瞳には、魂の触り覚えが宿されていました。





ジーマの

## ロシア小話

◆患者：先生、私の病気は本当に絶望的に不治なのか？

医者：そんな悲観的な言い方はやめていただきたい。別の表現をしましょう。

つまり、私があなたをすっかり治すことができれば、世界的に有名になると。

◆あなたのお酒を飲む量と関係なく、あなたより多く飲む奴らは皆上戸であり、あなたほど飲めない奴らは皆弱虫である。

◆ロシアの鉄道の夜行列車には最近、男性用と女性用の部屋が導入された。次のステップは、男女別の専用列車の導入になる。なおかつ、その列車は違う方向に走る。

◆モスクワでは、2007年10月1日から、第5番の自動車学校では、新しいマーケティング・プログラムが成立する。そうすると、自動車免許を購入したお客さんには、交通規則のパンフレットがサービスとして渡されることになる。

◆ロシア市民がウォッカに使うお金は、国家が軍に使う資金より多い。だからウォッカが収めた勝利は軍より多い。



——ストレリツォフ・ドミートリさんよりのアネクドート——



## АНЕКДОТ



◆ - Доктор, неужели моя болезнь так ужасно безнадежна?

- Ну зачем же так мрачно! Давайте скажем по-другому: если я вас вылечу- я стану всемирно известен!

◆ Независимо от того, какая ваша обычная доза спиртного, в секто пьет больше вас- пьяницы, все кто пьет меньше вас- слабаки.

◆ В Российских железных дорогах совсем недавно ввели новшество -отдельные купе для мужчины для женщин.Следующим шагом будет введение отдельных поездов.Причем- попутно о правильном направлении.

◆ Новая маркетинговая программа начинает действовать в Москве с 1 октября 2007 года в автошколе №5.

Отныне каждому купившему водительские права будет бесплатно вручаться брошюра "Правила дорожного движения".

◆ Граждане России тратят на водку больше средств, чем государство на армию. Поэтому и победу водки на много больше.

# 振替用紙のメッセージから



- ◎少額ですがイラク支援にお役立て下さい。
- ◎暑い暑い夏でした。すっかり体調を崩してしまいました。健康あつての行動です。当たり前のことを実感した年でした。
- ◎「六ヶ所村ラブソディ」上映会ではいろいろとありがとうございました。賛助会費申し込みます。JCFの活動頑張つて下さい。私もできること、小さなことを息長く続けていきたいです。
- ◎雨が降っています。寒いです。みんながいつもの年より早く大きく色付いて味もよし、櫻の葉がみごとに紅葉しています。人の思いや思いからくる出来事を越えて自然は淡々と営みを続け平和です、すごいです。
- ◎「フストレーチャー」の小沢さんのお話にとても感銘を受けました。まさしく人生の『旅』の重みをひしひしと感じました。
- ◎難民も認めない日本政府め、地球人と言う考えはないのでしょうか？セツナイデス
- ◎ささやかですが、保育器購入の資金に加えてください。
- ◎とにかくこどものことの支援はしたいと思っています。子どもたちの未来のために。
- ◎犠牲になった子供たちの一日でも早い回復祈っております。
- ◎ベトカ地区で生まれた命が大切に育まれることをお祈りします。
- ◎鈴木眞美さんが作った「わたしのできること」。これだけのことを考えて、作ったなんてすごい！感動しました。今度はこれを読んだ自分たちが広げていく番です。今日から一枚ずつハガキを出します。
- ◎軍備にどんなにお金を使っても平和にならないことに早く気付いて欲しい。



- ◎「細く長く」で基金に応募しています。
- ◎孫が生まれ、どの子も幸せになつて欲しいと祈りつつ少しずつですが、心ばかりですがお役に立てたらうれしいです。ありがとうございます。
- ◎街はクリスマスの飾りつけで賑わいはじめました。人々のちいさな善意が困難な状態で暮らしている人たちに届けられるクリスマスでありますように。
- ◎グランドゼロをいつもありがとうございます。赤ちゃんが元気に育ちますよう祈っています。
- ◎苦しんでいる人達が、一日も早く安心した日々を暮らせるように祈つてます。
- ◎事故当時何もできなかった自分と、子供ができない自分と少し重なり、少しですが応援したくなります。
- ◎想像することは本当に大切なことです！
- ◎鎌田實さんの話をぎきました。寄付です。チエルノブイリの子どもたちのために使つて下さい。



## 認定NPO法人申請に伴うお願い

現在JCFは「認定NPO法人」の申請準備をおこなっています。認定されますと皆さまからいただくご寄付は、『寄付金控除』の対象となります。

なお、この認定に伴い、税制の規定により、国税庁への寄付者名簿提出が必要になります。

この名簿への掲載を希望されない場合は、2008年1月末日までに、JCFまでご連絡ください。(ご寄付の際、振込用紙に「匿名希望」とお書きになっている方は名簿に記載いたしません) また名簿への掲載を希望されない場合は、上記の控除対象とはなりませんのでご了承ください。

JCF事務局

## ジャパン・プラットフォームよりイラク支援事業への助成決定

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームの「民間資金によるイラク支援事業」による助成金 4,017,340 円を受けることが決まりました。11月にマレーシアで行なった第7回 JIM-NET 会議でも、まだまだ医薬品や医療機器、資材の支援が必要であることがわかりました。約 400 万円の助成金は、バグダッドの小児病院で血小板輸血を受けるためのセルセパレイターのキット購入費です。すでに、アンマンの医療資機材会社へ発注しました。バグダッドには1月初旬に到着する予定です。白血病の子どもたちが十分な治療を受けられるよう、一步一步進めていきたいと思っています。



## 2007 年冬・募金のお願い!



### ☆ ナジェージダ 2007 ☆



ベラルーシ、ベトカ地区。チェルノブイリ原発事故による多量の放射性物質で汚染された地域だ。

住民は強制移住させられ、医療スタッフも汚染を嫌って引っ越していった。地区病院のナジェージダ院長は、生まれ育ったこの地だから、ここ

で暮らす人々のために頑張る、と言う。

高汚染地だからこそ、健康に対する人々の不安もひとしおだと思う。私たちは、ナジェージダ先生に会い、この地にこそ、新しい命を育み、希望をつないでいてほしい、と共鳴した。

皆さんからベトカ地区病院保育器支援に、12月10日現在、2,484,493 円のご寄付をいただきました。たくさんの応援をありがとうございます。

ベトカ地区病院に現地購入見積をとってもらったところ、一台約 200 万円かかることがわかりました。何とか保育器二台を支援したいと思います。引き続きの応援をどうかよろしくお願いします!

## ナジェージダ<希望> 2007 振込口座

郵便振替口座番号	00520-6-10993
加入者名	ナジェージダ 2007



\* 同封の振込用紙のナジェージダ 2007 に○をして頂いても、保育器支援に振り分けます。

信三郎帆布

SHINZABURO  
HANPU KABAN



手提げ鞆 A、B



手提げ鞆 C



- |               |                          |            |
|---------------|--------------------------|------------|
| ☆綿帆布製手提げカバン A | (26 × 口元 36 ・ 底 30 × 6)  | 定価 4,500 円 |
| ☆綿帆布製手提げカバン B | (29 × 口元 39 ・ 底 31 × 8)  | 定価 5,500 円 |
| ☆綿帆布製手提げカバン C | (22 × 口元 39 ・ 底 27 × 12) | 定価 3,500 円 |

#### ◎購入お申し込み方法

- ・ お名前
- ・ 手提げカバンの＜A、B、C＞
- ・ ご注文個数
- ・ 郵便番号
- ・ ご住所
- ・ 連絡電話番号

を明記して、日本チェルノブイリ連帯基金までお申し込み下さい。

郵便振替用紙を同封してお送りします。お手許に届きましたら、用紙に記載された代金と送料をご送金下さい。

- ◆日本チェルノブイリ連帯基金
- 〒 390-0303
- 長野県松本市浅間温泉 2-12-12
- Fax.0263-46-6229
- E-mail jcf@jca.apc.org

チェルノブイリの子ども達の 笑顔を祈って



#### JCF オリジナル手提げができました！

ジュネーブ在住の画家猪又由加里さんが、チェルノブイリの被災者が心身共に健康であることを祈念してロゴをプレゼントして下さいました。

ウクライナ語の「チェルノブイリ」の下にひらがなで「ちえるのぶいり」という文字が筆書きされ、ウクライナ国旗に使われている青と黄色の二色が配色されています。

京都の一澤信三郎帆布さんに、このロゴを印刷したオリジナル鞆を作成して頂きました。JCFだけのオリジナル鞆、裏面の信三郎帆布のタグが製品のクオリティーを証明しています。

鞆売り上げの利益はチェルノブイリの子どもの医療支援に使います。

おしゃれなエコ鞆として、親しい方への特別なプレゼントに、ロゴの説明を一言添えて贈りませんか！



# こんにちは！



事務局広場

ПЛОЩАДЬ



# Здравствуйте!

## ジュネーブ チャリティー・コンサート

チェルノブイリの友インジュネーブ



演奏する長谷正一さん

チェルノブイリの事故後、21年を経た今日、まだ、放射能の害に苦しんでいる子供たち、大人たちがおられます。私たち、チェルノブイリ友の会インジュネーブは、次の世代を背負う子供たちの生きるお手伝いをしたいと、10月26日、ジュネーブの音楽院小ホールでコンサートを開きました。

昨年は絵画展、今年はコンサート、2度目のチャリティーショウです。コンサートの準備段階でどのくらいの方々が我々の主旨に賛同して頂けるか心配しておりましたが、当日、椅子の数を増やさなければならぬほど大勢の予約がはいりました。また、日本総領事館の主宰する文化月間の参加イベントでもありました。

ピアノ演奏者の長谷正一さんは、ドイツ、リューベックに留学し、その間ブルーノ・レオナルド・ゲルバー氏のもとで研鑽を積み、現在洗足学園大学で教鞭をとり、国内外のコンクールの審査を多数勤めている方ですが、このためにだけ、わざわざ日本からいらしてくださったのです。また、ピオラの原麻理子さん、ピアノの岡純子さんは、ジュネーブ在住の演奏家で、原さんは、長崎出身の方です。

コンサートの始まる前に、会場の隣にあるホールに受付をおき、来訪者の確認やご寄付の受領をし、同時に軽い飲み物やおつまみを提供いたしました。お客様の中には、個人の資格でお友達を誘って来てくださった日本の大使夫

人、スイス人で、孤児院の世話をしていたらっしゃる方、チェルノブイリ問題に他からアプローチをしていらっしゃる方などのお姿もみえました。ジュネーブは国際都市ですのでスイス人だけでなく、いろいろな国籍の人が席をうめました。また、日本チェルノブイリ連帯基金からは3名の方が、ベラルーシとウクライナのお仕事の後で来てくださいました。時間になり、皆さんに着席をしていただいたのですが、申し込みなしで来られた方々もあつて、立つて聞く人もたくさん出るといふ有様でした。

オープニングの宮川大使のご挨拶では、日本は、原爆被災国として、チェルノブイリの事故、その被災者の方には、官民ともに大きな注目を払っていることとお話いただきました。ジュネーブのWHO（世界保健機構）で、2004年から放射線部門のトップとして活躍なされ、放射線と健康という命題の下で、チェルノブイリや他の問題の情報収集分析などをなさった、長崎大学教授の山下俊一博士もまた日本から飛んでこられ、現状のお話をしてくださいました。すぐ後に続いた、ヒンデミットのピアノとビ

オラのためのソナタ、ニーノ・ロータのインターメツォという、現代の音楽に、何のこだわりもなく入っていったのは、若い二人の熱演のおかげでもあります。ピアノ独奏は、バッハの「シャコンヌ」とムソルグスキーの「展覧会の絵」という二つの難曲、会場の熱気は高まるばかりでした。

熱い気持ちのまま、コンサートが終わって、会場を出てくる人の中から、「寄付をしたのですが、受付はどこですか」という声が、あちこちから聞こえてきました。私たちにとっては、うれしい驚きでありました。

このようにして、人の心におきた大きな波が、チェルノブイリの子供たちに伝わり、それが、ひいては、世界平和につながると思わせてくれた夜でした。

来年は、もっと大きな会になることを祈りつつ、ジュネーブからの報告にさせていただきます。



沢山の観客が熱心に耳を傾けました

# Здравствуйте!



事務局広場

ПЛОЩАДЬ



# こんにちは!

## 鎌田先生の旅にまつわる素敵な本

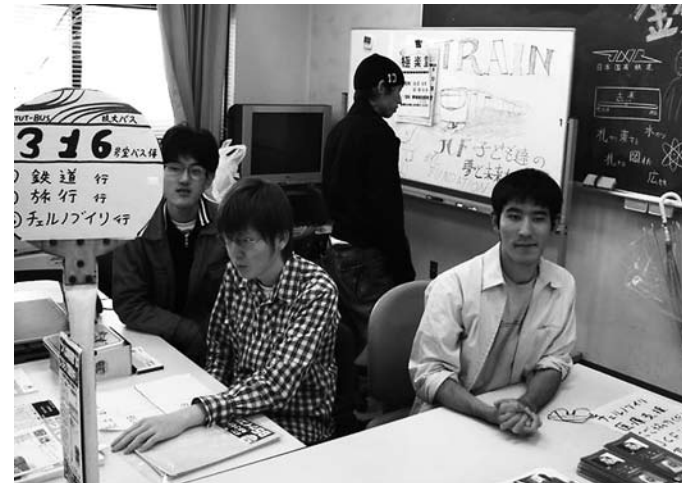
ぼくは旅が好きだ。  
旅の中で、ドキドキしたりワクワクしたりが  
たまらない。  
旅は人生の栄養剤。  
旅先で見たことのない景色につつまれ、  
知らない人から知らない話を聞いて、  
食べたことのない食べものに会おう。  
旅は自分の生活から離れ、  
自分と向き合う時間をつくってくれる。  
旅は心を成長させてくれる。  
旅は楽しい時間だ。



旅、あきらめない  
著者：鎌田 實  
発行：講談社  
定価：1400 円 + 税

人生そのものが旅のようなもの。  
生きている限り人は  
心の中で旅をしたいと思っている。  
あなたの心の中にある旅を思い出してください。  
病気があっても  
障がいがあっても  
高齢になっても  
こわがなくていい。  
なんとかなる。  
旅は、体を元気にしてくれる。  
旅は心に自信をくれる。  
旅は、あなたの人生を豊かにしてくれる。きっと。

—はじめにより—



学図祭でJCFの展示してくれた西村君（右端）

10月27、28日の2日間、私が学ぶ筑波技術大学春日キャンパス（視覚障害系学部）で学祭が行われました。この筑波技術大学は、障害者の自立と社会参加をめざして国が設立した国立の大学で「視覚障害系」「聴覚障害系」それぞれの学部があります。少人数制で、学生の障害を考慮した設備が整った特色ある大学です。

2年前の夏にスタディツアーに参加した自分としては「なんとか自分の大学の学祭でPRをしたい」と思い企画書を提出。しかし、展示を自分ひとりで行う事には限界があり、学内の学生、教員だけでなく、となりの筑波大学の学生にも声をかけました。その結果、学科や大学の枠を超えた多くの協力を得ることができ、準備や運営に手を貸して頂きました。

学祭初日に台風が直撃するという恵まれない状況の中にも関わらず、2日間に学内・学外から100名を超える方が来場されました。

準備、運営を通じ多くの方の協力をいただき成功をおさめる事ができました。

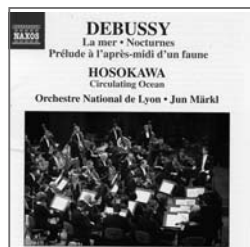
手さぐりの中で成功、学祭での展示発表！

西村博章（筑波技術大学）



## ドビュッシー：海／細川俊夫：循環する海

準・メルクル指揮  
フランス国立リヨン管弦楽団



ドビュッシー：海／細川俊夫：循環する海  
演奏：準・メルクル指揮  
フランス国立リヨン管弦楽団  
発売：NAXOS（ナクソス）  
定価：オープン価格（輸入盤）

ドビュッシー作曲「海」ほかの管弦楽曲と、2005年のザルツブルク音楽祭でワレリー・ゲルギエフ指揮ウィーン・フィルにより世界初演された細川俊夫作曲「循環する海」（世界初録音）を収録。「循環する海」は2007年11月に準・メルクル指揮、フランス国立リヨン管弦楽団の来日公演で日本初演された。

CD

## そして地には平和を〜シャンティクリア・ミサ

シャンティクリア



そして地には平和を〜シャンティクリア・ミサ  
演奏：シャンティクリア  
発売：ワーナーミュージック・ジャパン  
定価：2520 円（税込）

米サンフランシスコを本拠とする男声アンサンブル「シャンティクリア」の最新アルバム。アンドレア・ガブリエリ、カルロ・ジェズアルドといったルネサンス／初期バロックの作曲家と、シャンティクリアが委嘱した現代の5人の作曲家によるミサ曲。シャンティクリア創始者のルイス・I・ボットーの没後10年を記念した作品。

CD

## ディラン・ザ・ベスト

ボブ・ディラン



ディラン・ザ・ベスト  
ボブ・ディラン  
発売：ソニー・ミュージック  
エンタテインメント  
定価：2730 円（税込）

ボブ・ディランの約50年の活動を凝縮した初のオール・タイム・ベスト。全18曲を収録。ロック・ファンのみならず、ディラン初心者や次世代のディラン・ファンに向けた「ディランを追求するコンパスと地図」となるアルバム。

CD

## 原発崩壊

明石昇二郎



原発崩壊  
著者：明石昇二郎  
発行：（株）金曜日  
定価：1500 円＋税

失敗の言い訳をする際、大変便利で使い勝手のいい言葉に、「想定外」というものがある。柏崎刈羽原発事故以後、電力会社の語る「想定」は、もはやまったく信用できなくなった。「震災事故」は「天災」ではなく人為的な要因が多分に絡んだ「人災」である。柏崎刈羽原発事故は序章にすぎない。地震列島・日本は今、「原発震災前夜」の状況下にある。（本書帯より）

Book

## 「震度6強」が原発を襲った

朝日新聞取材班



「震度6強」が原発を襲った  
著者：朝日新聞取材班  
発行：朝日新聞社  
定価：1200 円＋税

2007年7月16日、新潟県中越沖地震が柏崎刈羽原発を襲った。マグニチュード6.8、震度6強という「想定外」の地震で「原発に何が起こったのか」を詳細に追ったルポと、「中越沖地震はどのように起こったのか」「『原発耐震指針の改訂』はどのように行われたのか」などをテーマに検証している。

Book

## 「科学」2007年11月号

岩波書店



「科学」2007年11月号  
発行：岩波書店  
定価：1400 円（税込）

本号の特集は「日本の原発はなぜ（信頼）されないのか」。（原発震災）が現実味を帯びて語られる今、考えるべきことは何か。原発の老朽化、高レベル放射性廃棄物の処分問題、使用済み核燃料再処理、プルサーマル、データ改竄・隠蔽事件、原子力政策、エネルギー問題などを取り上げている。

Magazine



第 74 号

発行日 2007 年 12 月 26 日

発行人 鎌田 實

発行所

日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原 浩

イラスト 小林裕子

表紙デザイン 酒井隆志

スタッフ 神谷さだ子

布山みな子

協力 オフィスエム

寺島仁美

JIM-NET

風樹光

佐内朱

印刷 電算印刷

#### ■編集後記

大好きな方が突然亡くなった。書家でもあったその方が書いた(さかさふく)の書を使った来年の小さなカレンダーを、ご家族から形見として頂いた。(さ)は中国では福を招くめでたい文字だという。おおらかに美しい(福)の文字に、旅立った方の笑顔が重なる。頂いた福を育てる年になりますように…

布山

## 販売物紹介

### Book

・「チェルノブイリからの伝言」

JCF 編 (オフィスエム) 1200 円

・「ぼくたちの見たチェルノブイリ」

松商学園高校放送部 著 (オフィスエム) 1700 円

・ユーラシア・ブックレット No.21

「ベラルーシ 大地にかかる虹」

～日本チェルノブイリ連帯基金の 10 年」

神谷さだ子 著 (東洋書店) 600 円

### CD

・「坂田明／ひまわり」

2500 円

JCF 理事長鎌田實が立ち上げた

「がんばらないレーベル」第 1 弾。

・「小室等／ベラルーシの少女」

(8cm シングル盤) 1000 円

### JCF オリジナル鞆

・綿帆布製手掛けカバン A 4500 円

・綿帆布製手掛けカバン B 5500 円

・綿帆布製手掛けカバン C 3500 円

\* 詳細は本誌 P38 をご覧ください。

### 本橋成一写真集

本橋成一写真集

・「無限抱擁」

(リトル・モア) 3800 円

・「ナージャの村」

(平凡社) 3000 円

・「アレクセイと泉」

(小学館) 3500 円



## 日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF) 活動紹介

日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF) は 1991 年 1 月に設立されました。1986 年 4 月 26 日に起きたチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故の放射能被災地へ、主に医療を中心として支援活動を展開しています。

支援開始当初のベラルーシは、深刻な経済状況で、白血病など病気の子ども達は、十分に治療を受けることができませんでした。衛生管理もできなかったために、多くの子ども達は感染症などで亡くなっていました。JCF は、現地の医師らと話し合いながらプロジェクトを組み、信州大学などの医療従事者と共に着実な支援活動を続けてきました。

そして 2004 年、活動の支援先はイラクへも広げられました。イラクでは湾岸戦争以後に白血病が急増しています。長期にわたった経済制裁後、新たに起きた戦争で極端に物資が不足、子ども達の治療もままならず、多くのいのちが失われています。



## 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

イラクにおける小児がん (おもに白血病) 医療支援のためのネットワーク。医療支援を行っている NGO や関心のある医師たちが、専門性を持ち、過不足のない支援を (イラクの人々が自分たちできちんとした治療ができるようになるまで) 継続的に続けることを目指して立ち上げたネットワーク。JCF も構成団体の一員。  
website <http://www.jim-net.net/>

### ◆ JCF 会費振込口座

賛助会費	5,000 円
特別賛助会費	30,000 円
事務局ガンバレ会費	10,000 円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

### ◆ JCF / イラク支援振込口座

血液成分分析機購入、医師招聘研修、薬品購入	
郵便振替口座番号	00520-0-81078
加入者名	JCF / イラク支援

### ●特定非営利活動法人

日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)

〒390-0303

長野県松本市浅間温泉 2-12-12

TEL 0263-46-4218 FAX 0263-46-6229

E-mail [jcf@jca.apc.org](mailto:jcf@jca.apc.org)

Website <http://www.jca.apc.org/jcf/>

